

# 公 民 [ 倫 理 ] (100 点 50 分)

2012年9月18日(火)2限 実施  
前期期末考査  
千葉県立長生高等学校 第3学年 ABCD組  
Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問9)に答えよ。(配点 20)

イエスの言動は『新約聖書』のなかの (a)福音書にしるされている。イエスは 30 歳のころ、ヨルダン川のほとりで洗礼者 [ 1 ] によって洗礼を受け、ガリラヤで改革の第一声をあげた。「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。

律法の形式的な遵守と、律法にふくまれている信仰に忠実になることとを別次元のものとして主張するイエスは、十戒での (b)安息日の労働の禁止を守ろうとする人々の前で、病人に治療をほどこす。また「殺すな、殺す者は裁判を受けねばならない」という律法に対して、イエスは「怒る者はだれでも裁判を受けねばならない」と述べ、人に対して怒りや憎しみをいなく者は、それだけですでに人殺しと同じ罪を犯したのであると説く。

すなわち、イエスは行為以前の心の状態を問題にし、律法を守ろうとするときの、神に対して忠実であろうとする心情の大切さを教え、律法の真なる内面化を求めるのである。

イエスは人間が守るべき律法を、二つの戒めであらわした。第一は、(c)神への愛を説く「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」である。第二は「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」であり、この (d)隣人愛の教えを、イエスは次のようにも説いている。「何ごとでも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」。この命令は (e)黄金律とよばれ、キリスト教道德の最高の教えをあらわすものとして、尊重されるようになった。

アガペーのもとに人間はみな平等であり、また貧者や弱者こそが救われるという、人類愛の精神をかかげるイエスの教えは、ユダヤ教の (f)律法主義者や祭司たちによって、彼らの権威をおびやかすものと見なされた。イエスは、神を冒瀆し、社会の秩序を乱すという理由で告発され、[ 2 ] の丘で十字架刑に処せられた。

だが、この刑死ののち、イエスは預言どおり復活して昇天したという信仰が、イエスの弟子たちのあいだに生まれた。やがてこの信仰は、イエスこそ神の子メシア(キリスト)であるという信仰となり、(g)ペテロを中心にイエスの教えを説く信徒の集団がつくられた。こうして、キリスト教が誕生したのである。

キリスト教が異邦人のあいだにも広がっていく糸口を開いたのは、パウロである。ユダヤ教の律法の熱心な信奉者であったパウロは、復活したイエスの声を聞くという宗教的体験を得て、神中心の生き方へと回心する。パウロは、原罪にけがされた人類を救うために、神が神の子としてキリストをこの世におくり、【 A 】と考えた。以降、彼はキリスト教の使徒として伝道に従事し、キリスト教が世界宗教として発展していく礎を築いた。

問1 文章中の空欄 [ 1 ] ~ [ 2 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①~④のうちから一つずつ選べ。

- |     |   |        |        |
|-----|---|--------|--------|
| [1] | [ | ① マルコ  | ② ヨハネ  |
|     |   | ③ ルカ   | ④ マタイ  |
| [2] | [ | ① サマリア | ② ゴルゴタ |
|     |   | ③ モリヤ  | ④ ナザレ  |

問2 下線部(a)に関連して、「福音」の言葉の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[3]

- ① よろこばしい知らせ      ② 使徒の到来      ③ 神の言葉      ④ キリストの誕生

問3 下線部(b)に関して、安息日に関するイエスの言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[4]

- ① 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれた。  
② 安息日を心に留め、これを聖別せよ。  
③ 安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。  
④ 安息日には、無傷の一歳の羊二匹をささげ、上等の小麦粉十分の二エファにオリーブ油を混ぜて作った穀物の献げ物とぶどう酒の献げ物を添える。

問4 下線部(c)に関して、神への愛に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]

- ① 罪人すら見捨てることのない神の愛に習って、われわれも神を愛すべきである。  
② あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。  
③ 神は人間を獣にも、神に近い存在にもなれる者として創造した。  
④ 神を愛することによってはじめて、神から愛される資格を得ることができる。

問5 下線部(d)に関してイエスの示す隣人として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① 近隣に居住する人々      ② 同じ共同体に属する人々  
③ 神を信じるすべての人々      ④ 救済を必要としているすべての人々

問6 下線部(e)に関して、黄金律を功利主義道徳の極致としてとりあげた人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① J. S. ミル      ② アダム・スミス      ③ ベンサム      ④ サンデル

問7 下線部(f)に関して、律法の遵守を説く平民の律法学者・学者・教師たちの名称として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① エッセネ派      ② サドカイ派      ③ パリサイ派      ④ 熱心党

問8 下線部(g)に関して、ペテロに関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 元キリスト教徒迫害者      ② 受難の時3度イエスを知らないと言って逃れた  
③ ガリラヤの漁師出身      ④ 12使徒のリーダー

問9 空欄【 A 】に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① ユダヤ教徒の政治的独立を助けようとした  
② 奴隷状態におかれたイスラエルの民を救済した  
③ イエスにキリスト教を宣教する役割を与えた  
④ 十字架のイエスをいけにえとして、人類の罪をあがなった



問2 下線部(a)に関して、ラテン語のカリタスと同義のギリシャ語として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15]

- ① アガペー    ② フィリア    ③ チャリティー    ④ エロース

問3 下線部(b)に関して、恩寵と自由意志をめぐるアウグスティヌスの思想についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 罪は神が人間に与えた自由意志によって生じる。  
② 人間は自らの自由意志に従い、善を行うことによって神に救われる。  
③ 恩寵はキリストを信じる者に、聖霊によって与えられる。  
④ 聖霊の恩寵によらなければ、人間は善を行うことができない。

問4 下線部(c)に関して、スコラ哲学についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① スコラ哲学は「神学は哲学の婢」であるという立場で、キリスト教によってギリシア哲学の基礎を支えようとした。  
② スコラ哲学の父といわれるカンタベリーのアンセルムスは、「知らんがために信ず」の原則に従って、信仰の根拠となるものを探究した。  
③ スコラ哲学の大成者、アレクサンドリアのオリゲネスは、「キリストは肉となった。これは愚かであるがゆえに信じうる」と語った。  
④ スコラ哲学によって、父と子と聖霊が3つの位格を持ちながら実体は1つであるという三位一体の教義が正統とされるようになった。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 14）

インドの思想と文化の原型を形成したのは、紀元前15世紀ごろに、中央アジアからインダス河畔に侵入した〔18〕人である。彼らは、先住民族を征服しながら東へすすみ、紀元前10世紀ごろにはガンジス川中流域に、氏族制の農耕社会と、宗教性の強い独自の文明をつくりあげた。バラモン、クシャトリア、ヴァイシヤ、シュードラという、いわゆるカーストのもととなった、(a) 四つの身分階層（ヴァルナ、「色」の意）が成立したのもこのころである。

カーストの最上位をしめたバラモンは、神々を祭るための複雑な儀式と難解な哲学をもち、地上の神として社会を支配した。バラモン教とよばれる彼らの宗教は、神々への賛歌や祭詞（のりと）、呪文などを集めた膨大な聖典『〔19〕』にもとづくものであった。

紀元前7世紀から4世紀にかけて、『〔19〕』に付属する (b) 哲学書『ウパニシャッド』が成立し、バラモン教の教義が整えられた。その中心をなすのは、輪廻と〔20〕の思想である。輪廻とは、人間がさまざまなものに生まれ変わりながら、無限に生死をくり返すことをいう。このくり返しを引きおこす原因が、人間の生存中の行為、すなわち〔20〕であると考えられた。この思想は、くり返される死の恐怖や、現在よりも悲惨な境遇に生まれ変わることに不安をともなうものであった。

バラモン教では、この不安をのがれ、よりよき生に生まれるために善業を積むことが説かれたが、のちには、輪廻の循環から解き放たれ、生死を超えた絶対の境地にいたるあり方（解脱）が求められるようになった。

『ウパニシャッド』は、解脱を次のように説明する。まず、宇宙のあらゆる現象の根底には、それを生み出している不変・絶対の原理としての〔21〕がある。

一方、すべての生きものの中には何に生まれ変わっても変化しない自己（アートマン、我）がある。しかも、すべての生きものは〔21〕から生じたものであるから、私たち自身の奥底にある不変の自己は、絶対の原理である〔21〕と実は同一である。したがって、真実の自己であるアートマンを自覚すれば、ただちに絶対的なものとの合一が実現し、人間は(c) 解脱することができるとされた。そして、そのための修行として、出家して修行者となり、瞑想と禁欲、苦行を積むことが求められた。

問1 文章中の空欄〔18〕～〔21〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [18] 

①	アーリア	②	シンハラ
③	ドラヴィダ	④	クルド

- [19] 

①	スートラ	②	ヴェーダ
③	アーガマ	④	バガヴァッド・ギーター

- [20] 

①	サンサーラ	②	カルマ
③	アヒンサー	④	サティヤグラハ

- [21] 

①	ブラフマン	②	ダルマ
③	サンガ	④	サラスヴァティ

問2 下線部(a)に関して、ゴータマ・シッタッタの出身ヴァルナとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① バラモン ② ヴァイシャ ③ クシャトリア ④ シュードラ

問3 下線部(b)に関して、「ウパニシャッド」の意味として、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 知識 ② 奥義書 ③ 解脱 ④ 涅槃

問4 下線部(c)に関して、~~ゴータマ・ブツダの語る~~〈仏教における〉解脱に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 輪廻的生存は苦そのものであり、さかのぼってその最終的原因を滅ぼせば輪廻的生存はやみ、苦もなくなる。
- ② 仏法の成立しない末世の娑婆世界で救済されることはなく、極楽浄土へ転生することによって苦しみから解放されることができる。
- ③ 人は死んで火葬に付されたのち、いったん全員月世界に赴く。そのうち、前生で善をなし、正しい知識をもって祭祀を遂行した人びとは、二度と再びこの世に戻ってこない
- ④ 人は真実の知を得ることによって悟りに至り、それを得た人の悟りの境地が涅槃であり、それが解脱である。

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 20)

紀元前6～5世紀のインドでは、商工業の発達を背景に多くの都市が形成され、都市を中心とした小国家が建設されるようになった。それにもなつて、経済力を身につけた王侯や商工業者の力が強まり、バラモンの権威はしだいに衰えていった。

こうした社会変動のなかから、あらゆる伝統や権威を否定し、道徳の無意味なことを説く道徳否定論者や快楽論者など、新しい思想家が登場してきた。これらの思想は六師外道と総称された。なかでも、紀元前5世紀に [ 25 ] によって開かれたジャイナ教は、徹底した苦行と不殺生を説き、商人階級に大きな影響をあたえた。

こうした状況のなかで、(a)中道による解脱を説き、多くの人々に影響をあたえたのが、(b)ゴータマ = シッタッタの教え、すなわち仏教である。

彼はまず、この世を完全な満足の得られない世界であるにとらえる。こうしたこの世の苦しみは、ひとこと言えば、すべての事物が永続しないことにもとづいている。その根本にあるのは、あらゆるものは生滅変化しつづけており、常住不変なものはひとつとして存在しないということわりである。これを [ 26 ] という。

これは、見方を変えれば、個々の事物が独立不変の実体をもたないことをあらわしている。人間は、(c)五蘊の集まりである。しかし、その五つの要素はどれもがそれ自身として存在するのではなく、他に依存して存在するにすぎない。これは、人間以外のものでも同様である。したがって、人間のなかにも事物にも、不変な実体としての我は存在しない。

これらはこの世には独立不変のものは何ひとつ存在せず、すべては一定の条件・原因によっておこってくるという [ 27 ] をあらわしている。仏陀が悟ったこの真理を、(d)縁起の法という。

この世に生きる人間の願いや欲望は、現実の世界を支配する縁起の法と根本的に矛盾している。人間は、苦しみ避けられないことを知っているにもかかわらず、それを直視することなく、不死や永遠を願っている。仏陀は、(e)一切の苦しみの原因はこの矛盾のなかにあると考へた。すなわち、この世の苦しみは、この縁起の法を真に知ることができないこと、すなわち [ 28 ] によつてもたらされると考へたのである。

問1 文章中の空欄 [ 25 ] ～ [ 28 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[25] [ ① アーナンダ                      ② ヴァルダマーナ  
          ③ マニ                              ④ ウパーリ

[26] [ ① 諸行無常                      ② 一切皆苦  
          ③ 涅槃寂静                      ④ 諸法無我

[27] [ ① サンガ                              ② ダルマ  
          ③ ニルヴァーナ                      ④ サンサーラ

[28] [ ① 無常                              ② 無謬  
          ③ 無記                              ④ 無明



第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 12）

仏陀の死後100年ほどたつと、仏教教団は仏陀の教えの解釈をめぐり、仏陀の言行に忠実にしたがおうとする上座部と、仏陀の精神を重視する大衆部とに分裂した。この二派はさらに分裂を重ねて、紀元前2世紀ごろには、二十の部派に分かれた。これらを部派仏教という。部派仏教では、もっぱら仏陀の教えを分類し整理して、教えの意味の解釈や体系化がなされ、のちの仏教理論の基礎が形成された。また、彼らは仏陀の言行を解脱の方法として理解し、きびしい修行によって、[ 35 ] となることをめざした。

紀元前1世紀ごろになると、おもに大衆部の流れをくむ布教師や在家信者などのあいだから、大乘仏教の運動がおこった。彼らは、従来の上座部系の部派仏教の教えを自己の解脱のみを考える自利であり、小さな劣った教えであると批判して小乗仏教とよび、仏陀の言行の精神は、すべてのものの解脱をめざす慈悲（利他）にあると考えた。ここから大乘仏教では、一切衆生の救済をめざして修行する、[ 36 ] のあり方が理想とされた。彼らは、(a)一切は空であるとの立場に立ち、六波羅蜜の実践を通して、他者の救済と自己の悟りをめざした。

大乘仏教の教えは、[ 37 ] の空の思想によって、理論的に確立された。彼は、縁起の考えを徹底させて、すべての事物は相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在するのではない（無自性）と説いた。このことを一切皆空（五蘊皆空）という。

彼の理論によって、煩悩や苦行もまた固定的なものではなくなり、迷いのなかにある凡人にも仏となる可能性が開かれることになった。すなわち、この考え方は、自己の悟りと他者の救済にへだてを設けない慈悲の立場や、(b)すべての生きものに仏となる可能性（仏性）を認める考えにつながるものであった。大乘仏教の根本を確立した竜樹は、のちに中国や日本において、多くの宗派の祖として重んじられた。

さらに4世紀ごろには、実在するのは心のはたらきだけであり、外界の事物は意識の産物にすぎないとする (c)唯識の思想が唱えられ、大乘仏教の有力な学説として、後世に大きな影響をあたえた。

問1 文章中の空欄 [ 35 ] ～ [ 37 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [35] [ ① バラモン                      ② 菩薩  
          ③ 仏陀                              ④ 阿羅漢

- [36] [ ① バラモン                      ② 菩薩  
          ③ 仏陀                              ④ 阿羅漢

- [37] [ ① ナーガールジュナ              ② アサンガ  
          ③ ヴァスバンドゥ                ④ クマーラジーヴァ

問2 文中の下線(a)に関して、空の思想と六波羅蜜の思想をあらわす般若心経についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① 唐の玄奘三蔵がサンスクリット語から漢訳し、276字にまとめられた。
- ② 智慧の波羅蜜多の心髄をのべた経典で、詳しくは摩訶般若波羅蜜多心経という。
- ③ 仏に至る声聞、縁覚、菩薩の道が、実は一つの道であることが示されている。
- ④ 観音が般若波羅蜜多の行を修めて、五蘊が空であると理解したことが描かれている。

問3 文中の下線(b)に関して、この思想をあらわすものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① 中観派    ② 如来蔵説    ③ 教相判釈    ④ 久遠実成

問4 文中の下線(c)に関して、唯識派を研究する宗派として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① 法相宗    ② 律宗    ③ 華嚴宗    ④ 三論宗





問6 下線部(e)に関して、次の論語からの引用文中の空欄 [49] に入る最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

政を為すに [49] を以ってすれば、譬えば北辰のその所に居て、衆星のこれを共るが如し。

- ① 礼    ② 義    ③ 仁    ④ 徳

問7 下線部(f)に関して、仁に関する次の論語の文中の空欄 [50] に入る最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選べ。

子曰く、参よ、吾が道は一<sup>いっ</sup>以てこれを貫く。曾子曰く、唯。子出ず。門人問うて曰く、何の謂<sup>い</sup>ぞや。曾子曰く、夫子の道は [50] のみ。

- ① 忠 恕  
② 克己復礼  
③ 修己治人  
④ 仁 義

これで問題は終わりです。